

福澤諭吉著

通俗國權論

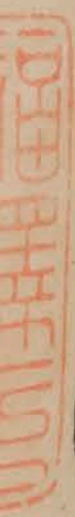
二編

明治十二年三月出版





福  
澤  
諭  
吉  
著



Faint, illegible text impressions, likely bleed-through from the reverse side of the page.

福澤諭吉著

通俗國權論

二編

明治十二年三月出版



定價貳拾貳錢

卷之二

二

二

地高十二平三日出遊

蘇谷國蘇人

二

蘇谷國蘇人

卷之二

二

二

通俗國權論二編緒言

近來民權ノ說世上ニ盛ナルガ如クナレモ未ダ十分ニ事實ニ  
行ハレタルヲ見ズ蓋シ民權ノ旨ハ政府ノ權ヲ人民ニ分チ人  
民タルノ一分ヲ立ルニ在リ其事固ヨリ美ナリト雖モ民權ニ  
モ政府權ニモ弊害ヲ舉レバ甚タ多シ政權過強ナレハ民ヲ苦  
シメン、民權過強ナレバ政府ヲ煩ハサン、此苦シムルト煩ハス  
トノ點ニ就テ互ニ之ヲ是非スレバ際限アル可ラズ恰モ水掛  
論ト云フモ可ナリ民權說ニ故障多クシテ實際ニ行ハレザル  
由緣ナリ故ニ今民權論ト兩立シテ特ニ大切ナル國權ニ力ヲ



盡スヲアラバ其際ニ弊害ヲ見サルノミナラズ官民一致シテ  
事ヲ爲スノ場合ニモ至ル可シ又民權ノ事ハ内ニ在テ近ク國  
權ノ事ハ外ニ對シテ重大ナルモノナレバ外ノ重大ヲ勉メテ  
誤ルヲナクバ内ノ民權モ自カラ其目的ニ達スル固ヨリ疑ヲ  
容レズ在昔攘夷ノ說アリ其所論甚タ粗漏ニシテ取ルニ足ル  
モノ少ナシト雖モ尙當時獨歩ノ國是ト爲リテ社會ヲ動カシ  
タルヲアリ況ヤ今日ニ在テハ既ニ内外ノ事情ヲモ詳ニシテ  
知我知彼以テ國權ノ論ヲ立ルニ於テチヤ日本國中誰レカヨ  
ク之ヲ是非スル者アラシヤ國權論ノ向フ所天下ニ敵ナク其



事ハ士民最上最後ノ目的ト爲リ我日本ノ聲價ヲ揚ケテ幾百  
倍チラシムルニ至ル可シ今ニシテ國權ヲ度外視スルハ國ニ  
不忠ナル者ト云テ可ナリ曩ニ通俗民權論及ヒ國權論ヲ發兌  
シ今又重テ國權論ノ二編ヲ綴ルモ著者ノ微意蓋シ此ニ在ル  
モノチレバ世間有志ノ士君子幸ニ此小冊子ヲ讀テ其主義ヲ  
分布スルコトアラバ獨リ著者ノ満足ノミニ非ス亦天下ノ幸福  
ナラン明治十一年十月六日福澤諭吉記

Faint, illegible text arranged in vertical columns within a rectangular border, likely bleed-through from the reverse side of the page.

通俗國權論二編

福澤諭吉 著

今ノ人類社會ニ於テ愉快満足ナル者多キ乎難澁不平ナル者多キ乎ト尋レバ難澁不平ナル者多シト答ヘザルヲ得ズ唯事實ニ於テ然ルノミニ非ズ不平ニ喋々シテ得意ニ黙々スルハ人情ノ常ニシテ其實ニ過ル者モ亦タ甚多シ春秋ノ好天氣ニ愉快ト稱スル者ハ少ナクシテ夏冬ノ暑寒ニ苦痛ヲ訴ル者ハ多シ農民ハ去年ノ豐作ニ黙シテ今茲ノ不作ニ喧シク商戸ハ投機ノ利ヲ人ニ語ラズシテ世上一般ノ不景氣ヲ歎息ス若シ人ノ愁訴ヲシテ眞實ニ然ラシメナバ農ハ既ニ饑死シ商ハ既

ニ産ヲ破リ黎民ハ年々次第ニ増加スル暑寒ノ爲ニ子遺ナキ  
筈ナレモ實際ニ於テ之ニ反スルハ何ソヤ人類ノ不平ヲ訴ル  
一其實ニ過ルノ證ナリ

世ノ人ノ有様ヲ平均スレバ實ニ難澁ニシテ不平ナル者多ク  
又人情トシテ其不平ヲ訴ルニ事實ヨリモ甚シ此世ハ或ハ不  
平世界ト云フモ可ナラン然リ而シテ此無限ノ人民ガ無限ノ  
不平ヲ訴ルニ其相手ハ何者ソト尋ルニ他ナシ唯己ガ上流ニ  
居テ社會ノ好地位ヲ占ル富強者ニ向テ怨望スルノミ然ルニ  
貧富強弱ハ元ト相比較シタル語ニシテ段々相對スルキハ甲  
ハ乙ニ向テ不平ヲ訴ヘ乙ハ又丙ニ訴ヘ一方ニ訴フレバ一方

ハ乙ニ向テ不平ヲ訴ヘ乙ハ又丙ニ訴ヘ一方ニ訴フレハ一方  
ニ訴ヘラレテ遂ニ際限アル可ラズ故ニ其結局ハ社會ノ中ニ  
テ最富最強ノ者が一切ノ不平怨望ヲ引受ルコトハ爲ルモノ  
ナリ世界古今專制ノ富強政府ガ常ニ社會ノ怨府タルモ亦謂  
レナキニ非ズ

每人ヨク事物ノ理ヲ推窮シテ世ニ處スルノ法ヲ思案シタラ  
バ仮令ヒ不條理ナル今ノ世ノ中ニテモ必スシモ安身ノ地位  
ナキニ非ス窮スレバ爰ニ其窮シタル所以ノ原因ヲ求メ今我  
貧乏スルハ搏奕ニ負ケタルガ爲ナリ負ル者アレバユソ勝ツ  
者モアレ去年我勝利ヲ得タルキハ同類ニ負ケタル者アリシ  
コトナラン搏奕失敗ノ難澁不平ハ結局世間ニ搏奕ノ跡ヲ絶ツ

ニ非サレバ免カル可ラズ然ルニ我モ亦搏奕世界ノ一人ナレ  
バ今ノ貧窮ハ其罪他ノ誰レ彼レニ在ラズシテ我ト世間ト共  
ニスルモノナリト斯ク道理ヲ附レバ左マデ不平ヲ抱ク可キ  
ニモ非ズ農民ノ難澁スル者モ商家ノ身代限シタル者モ醫者  
ノ流行セザル者モ學者ノ用ヒラレザル者モ官吏ノ免職シタ  
ル者モ戰士ノ敗北シタルモノモ一切銘々ニ安心ノ道理ヲ推  
窮シテ其不平難澁ヲバ天下一般時勢ノ成行キトシテ勘辨ス  
ルト此搏奕者ノ如クナレバ世ニ不平ノ元素ハ今ノ十分一ニ  
モ百分一ニモ減少ス可キ筈ナレモ今日ノ事實ニ於テ決シテ  
然ラズ人ヲ制スル者ハ道理ニ非スシテ情ナリ其情トハ何ソ

モ百分一ニモ減少ス可キ筈ナレモ今日ノ事實ニ於テ決シテ  
然ラズ人ヲ制スル者ハ道理ニ非スシテ情ナリ其情トハ何リ

ヤ如何トモスルヲ能ハザル難澁ノ原因ヲ將テ如何トモスル  
ヲ能ハザル者ニ歸スルノ人情即是ナリ譬ヘバ昔日疱瘡ノ流  
行ハ人カヲ以テ如何トモスルヲ能ハザリシガ故ニ其原因ヲ  
モ亦人カヲ以テ如何トモスルヲ能ハザル所ノ疱瘡神ニ歸シ  
タルガ如シ今日ニテモ漢家ノ醫者が百般ノ病ヲ診察シテ疝  
氣ト云ヒ疝症ト云ヒ西洋醫者ハ「レウマチス」毒ナドノ名ヲ下  
タシテ漠然タル説ヲ附ルハ必竟病ノ實ノ原因ヲ知ラズシテ  
如何トモスルヲ能ハサル病症ニ如何トモスルヲ能ハサル原  
因ヲ配當シタルモノナリ人類ハ如何ニ無知ナリト雖モ事ニ  
遭ヘバ決シテ之ヲ輕々看過スルヲナクシテ必ス其原因ヲ求

ルモノチレモ其コレヲ求ルニ當リ常ニ情ニ乗セラレテ理ニ  
入ルコト能ハズ世ニ不平ノ絶ヘザル由縁ナリ

疾病風雨水火ノ如キ天然ノ難澁ナレバ之ヲ災難ト名ク唯自  
カラ愚痴ヲ鳴シテ鬼神ヲ怨望スルニ止マルコトナレモ其難澁  
ナルモノ少シク人事ニ係ルキハ原因ヲ天ニ求メズシテ人ニ  
歸シ其人ヲ求ルニ當テ明ニ枚擧シテ名ク可キモノモナク又  
其事實ヲ視察スルノ明モアラサレバ唯漠然トシテ社會中ノ  
最富最強ナル政府ニ向テ之ニ罪ヲ歸セザルヲ得ズ蓋シ政府  
ノ力ハ人民ノ個々ヲ以テ如何トモス可ラズ人事ノ難澁モ亦  
如何トモス可ラズ、如何トモス可ラザル事ノ原因ヲ以テ如何



トモス可ラザルノ力ニ歸スルハ人情ノ常ナレバナリ故ニ天  
然ノ災難ニ於テ怨望セララル、モノハ鬼神ニシテ人事ノ難澁  
ニ怨府タルモノハ政府ナリ彼ノ苦寒苦熱ノ語ヲ見ルニ酷寒  
骨ニ徹スト云ヒ煩暑甑中ニ在ルガ如シト云ヒ天公人ヲ窘メ  
天公國土ヲ焦スト云ヒ怨望罵詈至ラザル所ナシ假ニ此寒熱  
ノ原因ヲシテ人力ノ以テヨク敵ス可キ者ナラシメナバ誰カ  
之ニ向テ顛覆ヲ企テザル者アラシヤ唯天ノ敵ス可ラザルヲ  
知テ愚痴不平ニ止マルノミ人事ニ於テハ古來ノ習慣モアリ  
又其時ノ法律等ニ由テ少シク遠慮スル所アリテ公然タル罵  
詈譏謗ニ及フモノハ少ナシト雖モ人民一般ヲ平均シテ其内

心ノ不平ヲ吟味スレバ不平ノ多キ固ヨリ論ヲ俟ズシテ政  
府ヲ怨望スルト鬼神ヲ怨望スルガ如キ人情アル可シ然リ而  
シテ鬼神ナレバ到底敵ス可ラザルモノトシテ敢テ敵對ヲ試  
ル者モアラザレモ政府ハ元ト人爲ニシテ其性質必スシモ動  
カス可ラザル者ニ非ス是即チ古今世間ニ往々政府ヲ顛覆ス  
ルノ説ヲ唱ヘテ之ニ應スル者アル由縁ナリ其本源ハ人民ノ  
不平ヨリ生シテ其不平モヨク道理ヲ推究スレバ必スシモ悉  
皆政府ニ係ルモノニ非ズ或ハ全ク縁故ナキ專柄ニテモ其歸  
スル所ハ一政府ニシテ政府ハ恰モ社會ノ下流ニ居テ天下ノ  
不平皆コレニ歸スルモノ、如シ結局一方ニ政府ヲ立テ一方

皆政府ニ係ルモノニ非ズ或ハ全ク縁故ナキ專横ニテモ其歸  
スル所ハ一政府ニシテ政府ハ恰モ社會ノ下流ニ居テ天下ノ

ニ人民ヲ立テ、相互ニ對スル作ハ反亂騷擾ノ元素ヲ除クノ  
日アル可ラザルナリ譬ヘバ日本ニテモ徳川ノ末年ニ天下ノ  
不平ヲ集メテ遂ニ政府ヲ倒シタレモ是ヲ以テ不平ノ元素ヲ  
除キタルニ非ズ維新以來モ屢不平ヲ洩サントシテ亂ヲ起シ  
タルモノ多クシテ今ノ政府ノ憂ル所ハ徳川政府ノ憂タル所  
ノモノニ異ナラズ世ニ不平ノ量ノ減少セザルヲ以テ知ル可  
シ

政畧ニニアリ曰ク人民ノ不平ヲ除ク之ヲ第一策トス曰ク全  
國ノ富強ヲ謀ル之ヲ第二策トス政畧ノ目的ハ固ヨリ第二策  
ニ在ルヲナレモ未タ第一策ヲ得サレバ第二ヲ謀ルニ遑アラ

ズ殊ニ今ノ日本ノ如ク新ニ政府ヲ改メタル國ニ於テハ第一  
策ノ急ナルヲ固ヨリ明ナリ是ニ於テカ政府ノ官人モ世間ノ  
學者モ様々ニ工夫ヲ運ラシテ各其說ナキニ非ズ一說ニ云ク  
人民ノ不平ハ到底除ク可キニ非ス之ヲ慰メントスルモ落葉  
ヲ拾フガ如クニシテ一不平ヲ慰レバ又二不平ヲ生シ二三四  
五際限アル可ラズ故ニ之ヲ慰ルハ之ヲ壓スルニ若カズ一時  
ノ權道トシテ壓制ノ術ヲ施シ苟モ不平ノ事實ニ現ハレタル  
者ヲ刈ルヲ落葉ヲ拾ヒ盡スガ如クシテ其未タ現ハレザルモ  
ノニハ自カラ不平ヲ含マシメ唯年月ノ經過ヲ方便トシテ終  
ニ之ヲ忘レシムルノ一策アルノミト此說モ決シテ妄漫無稽

ニ非ズ今ノ世ニ行ハル可キ政畧ノ十二七八ハ必ス權道ニシ  
テ壓制モ亦時トシテ止ム可ラズ殊ニ基礎未タ堅固ナラザル  
新政府ニ於テハ最モ壓制果斷ヲ要スルヲナレモ之ヲ壓シテ  
盡ルノ日ナキヲ如何セン落葉ハ之ヲ拾ヒ盡スモ樹木ニ損ス  
ル所ナシト雖モ人心ノ落葉タル不平ヲ刈リ盡サントセバ國  
ノ幹タル人民ノ元氣ヲ害スルノ患ナシト云フ可ラズ且到底  
不平ヲ盡スノ目的ナクシテ唯一時救急ノ策トシテ單ニ抑壓  
ノ方便ヲ用ルハ雷ヲ防クニ鉄ノ天井ヲ用ルガ如シ其鉄愈厚  
ケレハ雷ノ勢ハ愈劇シカル可キノミニシテ或ハ一時ノ急ヲ  
モ救フニ足ラザルヲアラシ元來國事犯ナルモノハ法ニ於テ

恐入ルト雖民情ニ於テ耻入ルニ非ズ不平ノ源ヲ尋レバ元ト  
官民共ニ永遠ノ道理ニ基ツカズシテ多クハ一時ノ人情ヨリ  
生スルモノナレバ其情ヲ制スルニ非サレバ源ヲ塞クニ足ラ  
ズ是ニ於テカ壓制ノ法律モ案外ニ功能少ナキヲ知ル可シ  
又一説ニ地方ニ民會ヲ開キ首府ニ國會ヲ開キ人民ニ參政ノ  
權ヲ附與シテ其智力ヲ伸ハス可キノ地位ヲ得セシメナバ以  
テ鬱積シタル不平ヲ解クニ足ル可シト云フ者アリ此趣向ハ  
前説ニ比スレバ稍ヤ高尙ナルモノニシテ未タ我日本ニハ試  
ミタルヲモアラズ之ヲ試ミテ首尾ヨク行ハレナバ必ス目的  
ヲ達スルヲモアラント雖實際ニ於テ多少ノ差支ナキヲ得

ズ第一人民未タ會議ニ慣レズ政府未タ會議ヲ處スルノ法ニ  
慣レズ其儀式ノミニテモ整頓ノ日ハ甚タ待長シ第二儀式体  
裁既ニ整頓スルニ至ルモ實際ニ當テ政府ノ事務ト會議ノ事  
務ト其分界分明チラズシテ之ガ爲ニ會ノ衆議ニ許ス可キ事  
ヲモ許サズ政府ノ特權ニ任ス可キ事ヲモ任セズ徒ニ勞シテ  
其功ヲ見ザルコアル可シ第三事務ノ分界既ニ分明ニシテ政  
府ト會議ト各其事ヲ執ルニ至ルモ元ト會議ノ性質ヲ尋レバ  
國民ガ國政ニ參與シテ幾分カ政府ノ權ヲ分チ取ラントスル  
コナレバ政府ハ之ヲ分與スルニ必ズ吝ナラザルヲ得ズ與シ  
トスル者ハ少ナカラシテ欲シ取ラントスル者ハ多カラシテ

欲シ是ニ於テカ双方ノ間ニ爭論ヲ生シテ遂ニハ其本務ヲ忘  
レ相互ニ他ノ短所缺典ヲ枚舉シテ止ザルコトアル可シ蓋シ人  
ト事ヲ謀ルニ一種貴重ナル目的ヲ定メテ双方共ニ之ニ向フ  
ルハ細目ノ議論ニ異同アルモ歸スル所ハ一ニシテ議論モ治  
マルコトナレモ若シモ其目的ヲ知ラズシテ唯議論ニノミ熱心  
シ恰モ議論ヲ目的トシテ議論スルコトアラバ其議論ハ唯喧嘩  
ノ種タル可キノミ之ヲ譬ヘバ古ノ武人ガ劍術ヲ稽古シ書生  
ガ書ヲ輪講スルガ如シ其目的ハ元ト武術ニ上達シテ戰場ノ  
用ヲ爲シ讀書ニ上達シテ經世ノ用ヲ爲サンガ爲ナレモ若シ  
モ此目的ヲ忘レテ劍術ノ仕合ト輪講ノ勝敗ノミニ心ヲ盡シ



モ此目的ヲ忘レテ劍術ノ仕合ト輪講ノ勝敗ノミニ心ヲ盡シ

恰モ道場塾舎ヲ以テ最後ノ場所ト定メタラバ喧嘩口論ノ止  
ム日ハナカル可シ今政府ト人民ト相對シ其相對スルヤ未タ  
双方相共ニスルノ目的ヲ見出サズシテ一方ハ與フルコト少  
ナカラシムラ欲シ一方ハ取ルコト多カラシムラ欲シテ唯其間ニ  
日月ヲ消スルキハ際限アル可ラズ且双方既ニ一場ノ敵對ヲ  
成シテ互ニ他ノ缺典ヲ搜索スレバ政府ニモ缺典ハ甚タ多ク  
人民ニモ亦甚タ多シ缺典多キ者ニ向テ完全無缺ヲ求ム其成  
跡ハ唯道場塾舎ノ喧嘩ノ如キ者アラシムミサレバ地方ノ民  
會首府ノ國會モ終ニハ其功能アル可シト雖モ直ニ之ヲ設ケ  
テ目下人民ノ不平ヲ除クノ方便トスルニ足ラザル可シ

又一説ニ云ク忠義ノ心ハ社會ヲ推持スルニ最モ有力ナル方便ナリ徳川政府ノ大平二百五十餘年ノ間ニ不平ヲ唱ル者ノ少ナカリシモ必竟人民ノ忠義心ニ依頼シタルモノナレバ今日ノ急須ハ天下ノ人民ニ忠義ノ教ヲ獎勵シテ王室ノ在ル所ヲ知ラシメ次第ニ人心ヲ導テ今ノ王室ヲ親シムコト昔日諸藩ノ士民ガ各其藩ニ歸依シタルガ如クナラシムルニ在リ忠義ノ元素ヲ以テ一度ヒ人心ヲ維クモハ些々タル不平論ノ如キハ之ヲ憂ルニ足ラザルナリト此説ハ説キ得テ妙ニシテ事實ニ得ルコト容易ナラザルモノナラン何トナレバ今ノ時勢ニ於テ俄ニ行ハレ難キ事情アレバナリ抑モ維新ノ初ハ尊王攘夷

テ俄ニ行ハレ難キ事情アレバナリ抑モ維新ノ初ハ尊王攘夷

討幕ノ說ヲ以テ專ヲ成シ即チ忠義ノ一事ニ關シテ罪アル幕府ノミヲ討シテ罪ナキ諸藩ハ固ヨリ其マヽニ差置ク可キ景況ナリシハ未ダ忠義ノ古風ヲ變動セザルモノナリ其後又コノ忠義ノ旨ヲ擴メ諸藩主ニテ土地人民ヲ私有スルノ理ナシトテ藩籍奉還次テ廢藩置縣ニ及ヒ是ニ於テカ各藩ノ士民ハ數百年我君ト思ヒシ藩主ヲバ君トセザルコトニ爲リ既ニ君トセサレバ古風ノ忠義モ不用ノモノト爲リテ之ヲ要スルニ日本國中ニ忠義心ノ量ハ大ニ減少シタリト云フ可シ固ヨリ此際ニハ世上ニモ様々ノ議論アリテ君臣ト主從トハ別ノモノナリ各藩ノ士民ガ藩主ニ對シテハ主從ナリ王室ニ對シテハ

君臣ナリトノヲニ治リハ付キタレモ廣キ人間社會ニハ斯ク  
綿密ナル區別ナスル者少ナクシテ唯藩主ノ廢物タリシヲ見  
テ忠義心モ亦共ニ無用物ト思フモノ、如シ此輩敢テ今ノ王  
室ヲ蔑視スルニ非ズ往古ヨリ其至尊タルヲチバ了解シテ今  
日ニ在テモ朝廷ニ忠義ヲ盡ス筈ノ者ナリト云ヘバ決シテ之  
ヲ拒ム者モナク上下尊卑ノ分ハ誠ニ明白ニシテ全國ノ士民  
眞實ニ王室ノ臣民タルニ疑ヲ容レズト雖モ其忠義ノ情ニ至  
テハ未タ厚シト云フ可ラズ蓋シ民ノ情ヲ得ントスルニハ歲  
月ヲ經ルノ外ニ方便ナキヲチラン又廢藩ノ一舉ヨリ日本國  
中門閥ノ舊法ヲ變シテ商賣ノ新世界ト爲シ是亦忠義ノ古風

ヲ薄クスルノ原因タラザルヲ得ズ商賣射利ノ氣風ト忠義武  
勇ノ氣風ト兩立セザルハ固ヨリ明白ナル事實ニシテ現ニ今  
日ニ在テ既ニ其徵アルヲ見ル可シ一例ヲ舉レバ政府ノ官ニ  
在ル者が官ヲ榮トセズシテ官ヲ利スル者アルガ如キ卽是レ  
ナリ官アレバ隨テ俸アリ仕官シテ俸給ヲ受ルハ固ヨリ當然  
ニシテ昔日封建ノ時代ニテモ官吏ハ官祿ヲ以テ自カラ豐ニ  
シタルヲナレレ尙其体面ヲ裝ヒ唯出處進退ノ榮辱ヲ喋々ス  
ルノミニシテ食祿多寡ノ議論ハ殆ト士人ノ失体トシテ公ニ  
之ヲ口外スル者モナシ况ヤ祿ヲ以テ商賣ノ利ニ比較スルガ  
如キ談ハ世間未ダ曾テ聞カザル所ナリシカレ今日ハ則チ然

ラズ仕官ノ第一問題ハ月給ニシテ甚シキハ何等官ハ何千圓  
ニ當ルノ談アルニ至レリ其意味ヲ聞ケバ月給ヲ金ノ利足ニ  
配當シテ譬ヘバ公債證書ノ利子ヲ年八分ト定メ之ヲ十二分  
シテ一箇月ノ所得ヲ計算シ何等官ノ月給ハ何十何百圓ナル  
ガ故ニ正ニ何千何万圓ノ公債證書ニ當ルトテ仕官ノ身ヲ以  
テ財本ニ比較スルノ義ナリトゾ忠義ノ情薄キヲ紙ノ如ク冷  
ナルヲ水ノ如シト云フ可シ抑モ方今ノ時勢ハ門閥坐食ノ風  
ヲ厭ヒ盡シテ自立活潑ノ主義ヲ悦ヒ恰モ極度ヨリ極度ニ遷  
リテ然ル者ナラン是亦歲月ヲ經ルノ間ニハ事物ノ方向モ定  
マリテ自カラ其歸スル處ニ歸シ日本ノ人民必スシモ不忠不

マリテ自カラ其歸スル處ニ歸シ日本ノ人民必スシモ不忠不

義ノ薄情ニ陷ルコトモナカラント雖<sub>レ</sub>目下救急ノ方便トシテ  
俄ニ忠義心ヲ獎勵セントスルガ如キハ策ノ迂濶ナルモノト  
云ハザルヲ得ズ

以上所記ノ如ク天下ノ不平ハ政府ニ歸シテ世間ニ道理ヲ推  
窮スル者ハ少シ上下<sub>コモ</sub>交々情感ヲ以テ組成シタル此社會ニ於  
テ不平ノ元素ヲ除カントスルノ術ヲ求メテ第一コレヲ壓制  
シ盡サントスルモ不可ナリ第二會議ヲ設ケテ人心ノ鬱ヲ通  
暢セントスルモ未タ最後ノ目的ヲ得ズ第三人々ニ忠義心ヲ  
獎勵セントスルモ急須ニ應スルニ足ラズ然ハ則チ如何シテ  
可ナラン余輩コレヲ思フコト久シ唯全國ノ人民ヲシテ外國交

際ノ困難ヲ知ラシムルノ一策アルノミ抑モ社會ヲ維持スルニハ堪忍ノ心ヨリ大切ナルモノナシ何トナレバ天下ノ事物一方ニ利アルモノハ一方ノ害ト爲リ一般ニ平均シテ利害損得兩立シ難キモノ多ケレバ更ニ此利害ノ外ニ權デ、双方相共ニ由ル可キ方向ヲ定ルヲ緊要ナレバナリ譬ヘバ法律ヲ嚴ニスレバ政府ニ權ヲ増シテ人民ニ害アリ租稅ヲ寬ニスレバ人民ニ益シテ政府ニ損アリ賃錢ノ少ナキハ富人ノ得ニシテ利足ノ低キハ貧者ノ便利ナルガ如シ利害ノ相反スルヲ斯ノ如クニシテ双方相互ニ堪ヘ忍フノ心ナクバ社會ノ交際ハ一日モ保ツ可ラザルヲ明ナリ然リ而シテ天下ノ人ヲシテ此堪



忍ノ心ヲ抱カシムル所以ノモノハ何ソヤ唯小利害ヲ捨テ、  
大利害ニ着眼スルノ事情ニ依ルノミ父母ノ病中ニハ兄弟喧  
嘩ノ暇ナク火事ノ時ニハ兼テ不和ナル鄰家ノ主人モ亦來リ  
救フ兄弟相惡シカラザルニ非ズ鄰人未タ和睦シタルニ非ズ  
ト雖<sub>モ</sub>父母ノ病氣ト家ノ火事ハ利害ノ大ナルモノニシテ平  
生ノ小利害ニ關スル敵意ヲ廻想スルニ違アラザレバナリ之  
ヲ彼我共同ノ方向ト云フ即チ英語ニ所謂「コンモン、コース」ナ  
ルモノナリ

今我日本國中ニ於テ男女老少ヲ問ハズ貴賤貧富ニ拘ハラズ  
人ノ種族學流ノ異同ニ論ナク如何ナル愚者モ如何ナル智者

モ苟モ日本人ノ名アル者ナレバ日本ハ日本ノ日本ニシテ外  
國ニ異ナルヲ知ラザルモノナシ既ニ其異ナルヲ知レバ外國  
ノ善キヲ悦テ我國ノ惡シキヲ欲スル者ハナカル可シ外國ノ  
富強ヲ願テ我國ノ貧弱ヲ祈ル者ハナカル可シ之ニ反シテ日  
本モ外國モ共ニ善クシテ共ニ富強ナルヲ欲スルコトナラン加  
之外國ノ幸福富強ヲバ顧ミズシテ專ラ我國ノ幸福富強ヲ祈  
ルコトナラン加之今日ノ教育ニシテ今日ノ人情ニ於テハ竊ニ  
外國ノ不幸貧弱ヲ祈テ特ニ我國ノ幸福富強ヲ願フ者モ多カ  
ラン國人相互ニ言フ可クシテ外人ニハ語ル可ラザル事モア  
ラン國人相互ニ厄介ニ爲リテ外人ニハ依頼ス可ラザル事モ

アラン外人ニ不當ノ物ヲ貰フハ日本人ニ貰フヨリモ耻カシ  
ク外人トノ喧嘩ニ負ルハ日本人ニ負ルヨリモ残念ナラン是  
等ヲ計フレバ枚舉ニ遑アラズ徒ニ記者ノ筆ヲ勞スルヨリモ  
人々ノ思想ニ浮ブマ、ヲ記シテ足ル可キノミ宗教ノ流儀ニ  
從テ四海兄弟一視同仁ト云ヘバ誠ニ氣樂ニシテ本文ノ話モ  
固ヨリ通用ス可ラズト雖モ開闢以來政府ヲ立テタル世界万  
國ノ事實ニ通用スルヲ如何セン國ハ國人ノ私心ニ依テ立ツ  
モノト云テ可ナリ

人民立國ノ精神ハ外ニ對シテ私心ナレモ内ニ在テハ則チ公  
義ナリ然モ此公義ハ内國ニアル千種万狀ノ小利害ヲ鏘解シ

テ人民ノ共ニ與ニ由ル可キ方向ノ根本トシテ違ハザルモノ  
ナレバ苟モ國人ノ不平鬱積ヲ緩和シテ社會ノ秩序ヲ維持セ  
ントスルニハ此立國ノ公義ニ依頼スルノ他ニ方便アル可ラ  
ズ譬ヘバ方今佛蘭西ニテ政治ノ黨派ハ二ナラズ三ナラズ種  
々様々ノ異說爭論ニシテ甚シキハ腕力以テ相害スル程ノ勢  
チレモ軍制ヲ改革シテ多ク兵ヲ作ルノ一事ニ至テハ内閣及  
ヒ議事院ノ同說ハ無論、全國偏陬ノ地方ニ至ルマデモ一夫ト  
シテ異議ヲ唱ルモノナシト云フ蓋シ佛ノ人民ハ前年日耳曼  
ニ破ラレテ國ノ榮名ヲ汚シ復讎ノ念ハ一般ノ肺肝ニ銘シテ  
忘ル、可能ハズ之ガ爲ニ平常ノ政治法令ノ利害ニ就テハ議

ニ破ラレテ國ノ榮名ヲ汚シ復讎ノ念ハ一般ノ肺肝ニ銘シテ  
論多シト雖兵ヲ作テ國勢ヲ恢復スルノ一事ハ全國普通ノ  
大公義ニシテ恰モ他ノ政治ノ小利害ヲ鎔解スルモノナリ假  
ニ今日佛蘭西ナシテ敵國外患ナカラシメテ内亂荐ニ起リ  
兇徒不時ニ出沒シ國勢ハ四分五裂シテ遂ニハ獨立ノ体面ヲ  
保ツト能ハザルニ至ル可シ是即チ記者ガ今ノ佛蘭西ヲ適例  
トシテ日本ノ爲チ謀リ全國ノ人民ヲシテ外國交際ノ困難ヲ  
知ラシメ以テ我立國ノ本ヲ堅クセンコトヲ企望スル由縁ニシ  
テ曩ニ通俗國權論一冊ヲ著述シタルモ其微意蓋シ此ニ在ル  
モノナリ

敵國外患ハ内ノ人心ヲ結合シテ立國ノ本ヲ堅クスルノ良藥

ナリ古今ノ政談家ニシテ此義ヲ知ラザルモノナシト雖モ既ニ敵ト云ヒ患ト云ヘバ正ニ兵ヲ交ル敵ノ如ク正ニ頭ニ懸ル難題ノ如クニ思ハレ假令ヒ其性質ニ於テ良藥タルモ殊更ニ之ヲ求ム可キニ非ス譬ヘバ今内國ニ如何ナル人心不居合アルモ之ヲ治メンガ爲ニトテ無事安穩ナル外國交際ヲ殊更ニ破テ兵端ヲ開ク可キニ非ズ結局敵國外患ノ良藥タルハ偶然ノ事變ニシテ特ニ求ム可ラザルノ僥倖ノミトスル者多シ此說モ遽ニ聞ケバ理アルガ如クナレモ其實ハ事物ヲ思慮シテ切迫ニ過キタルモノナリ方今世界各國ノ交際ハ兵ヲ交ヘテ戰フモノモ少ナカラズト雖モ商賣工業ノ戰ハ兵ノ戰ヨリモ

說モ遠ニ聞ケバ理アルガ如クナレモ其實ハ事物ヲ思慮シテ  
切迫ニ逼キタルモノナリ方今世界各國ノ交際ハ兵ヲ交ヘテ

廣クシテ日夜片時モ休戦ノ暇アルコトナシ近クハ我日本ノ外  
國交際ヲ見ヨ我ニ器械ノ用法巧ナラザルアレバ敵ハ器械ヲ  
齎ラシテ侵入シ我ニ天然ノ産物豊ナルアレバ敵ハ之ヲ製作  
品ニ交易シテ掠去ラントシ金ニ餘アレバ銀ヲ以テ攻メ來リ  
金銀共ニ乏シケレバ爲替ノ相場ヲ以テ之ヲ侵シ金ニ銀ニ毛  
ニ綿ニ其貿易賣買ノ際ニ寸隙ヲ遺サズ一トシテ戦争ナラザ  
ルハナシ又法律上ノ關係ニ於テモ之ニ異ナラズ外人ノ我國  
ニ在テ其所爲今ノ如クナルハ正ニ條約面ノ箇條ヲ界ニシテ  
之ニ止マルノミニシテ其趣ハ柵ヲ樹テ敵ノ侵入ヲ防クニ異  
ナラズ柵ヲ進退スルコト一步ナレバ敵モ亦一步ヲ進退シ敵ヲ

限ルモノハ唯コノ一柵ニシテ他ニ依頼ス可キモアルコトナシ  
其交際險ナリト云フ可シ況ヤ往々此柵ヲ越ヘンコトヲ試ミ或  
ハ越ヘタル者アルニ於テチヤ外人ガ彼ノ遊獵發砲ノ規則ヲ  
犯シテ豪情ヲ張リ田舎ノ地方ニ小民ヲ威シテ賃錢ヲ倒シ内  
國人トノ引合ニ無法ナル原告ト爲リ無理ナル被告ヲ遁レン  
トスルガ如キハ間マ新聞紙ニモ見ヘ又人ノ話ニモ聞ク所ナ  
リ何レモ外患ヲラザルハナシ是等ノ差違ニ就テモ彼ハ常ニ  
自國ノ富强ヲ後口楯ニシテ大言ヲ咄ク者少ナカラズ假令ヒ  
虚喝ニモセヨ我方ニ於テハ之ヲ聞テ敵國ト認メサルヲ得ズ  
サレバ今ノ我外國交際ニ於テハ假令ヒ目下ニ兵馬ノ戰爭ナ



虚囑ニモセヨ我方ニ於テハ之ヲ聞テ敵國ト認メサルヲ得ズ  
キモ少シク猶豫シテ前後ヲ思慮スレバ各國皆敵毎事皆患ト  
云フモ可ナリ

敵國ノ多キヲ斯ノ如ク外患ノ大ナルヲ斯ノ如シ唯我國民ハ  
未タヨク之ヲ知ラザルノミ之ヲ知ラザルニ非ズ之ヲ知ルノ  
方便ヲ得ザルノミ然ハ則チ今ノ急要ハ全國ノ人民ヲシテ外  
國交際ノ事情ヲ了解セシムルヨリ先ナルハナシ其法如何シ  
テ可ナラン第一航海ヲ便利ニシテ人民ノ外國ニ往來スルヲ  
容易ナラシムル事、内國ノ人民内ニ在テハ某州ノ産ト云ヒ某  
縣下ノ住居ト云ヒ様々ノ關係ニ忙ハシクシテ内國外國ノ區  
別ヲ考ルニ遑アラザル者多クレテ一度ヒ日本ヲ去テ彼ノ國

ニ至レバ即日ヨリ某州某縣ノ考ハ消滅シテ一個ノ日本人ト爲リ先方ニ於テ所見所聞ノ事物ハ純然タル日本人ノ心思ニ感シテ喜モ日本ノ爲ニ喜ヒ怒モ日本ノ爲ニ怒リ喜怒哀樂ノ情ハ本國ヲ思フノ情ト共ニ發作シテ更ニ餘念ナキモノナリ海外ニ同行シタル傳習生徒等ガ相互ニ親愛シテ生涯無二ノ親友タルハ無論、假令ヒ職業ヲ異ニシ身分ヲ殊ニシ日本ニテハ千里相離レテ一面識ナキモ外國在留中ナレバ緩急相救フテ兄弟ノ如クスル者アリ又海外ヨリ歸國シタル者ニ逢フテ其話ヲ聞ケバ如何ニ無氣力ナル素町人ニテモ如何ニ無神經ナル日傭取ニテモ自カラ其思想ノ域ヲ廣クシテ漠然タル物

其話ヲ聞ケバ如何ニ無氣力ナル素町人ニテモ如何ニ無神經  
テ兄弟ノ如クスル者アリ又海夕ニ歸國シタルハ如何ニ  
語リノ中ニ日本國ト外國トノ區別ハ明白ナルガ如シ此輩固  
ヨリ無氣無神經ナリト雖モ万一我國ノ外國交際ニ事變ヲ生  
スルヲモアラバ其說ヲ咄キ力ヲ盡スハ必ズ他人ニ倍シ他人  
ニ先シテ事ヲ爲ス可キヤ疑アル可ラズ故ニ外交ノ困難ヲ知  
ラシメンガ爲ニ人ノ至情ニ訴ルノ術ハ人民ノ外航ヲ勸ルニ  
若クモノナシ

第二著書新聞演說等ノ方便ヲ以テ全國ノ人民ヲシテ周子ク  
國權ノ旨ヲ知ラシムル事、抑モ學者論客ガ事ヲ論シテ事ヲ爲  
サズ口ニ之ヲ言テ手ニ之ヲ執ラザルハ畢竟席上ノ空談ニシ  
テ實際ノ用ヲ爲サズトテ一概ニ之ヲ擯斥攻撃スルノ論ナキ

ニ非ザレモ少シク社會ノ事情ニ注意スレバ亦決シテ然ラザルノ實ヲ見ル可シ巧ニ事ヲ論シ巧ニ事ヲ爲シ議論ト實業ト兩様ヲ兼備シテ完全ナルハ固ヨリ願フ可キコトナレモ今ノ人智ニ限アリ今ノ教育ニ缺典多クシテ絶倫ノ天稟ニ非サレハ斯ル人物ハ得可ラズ啻ニ人物少ナキノミナラズ仮ニ是アリトスルモ事理ヲ考ル者ハ事業ヲ爲スニ遑アラズ業ヲ執ル者ハ理ヲ論スルノ餘暇ヲ得ズ古今ノ史記ニ徴シテ之ヲ知ル可シ國ノ執政ニシテ大部ノ書ヲ著シタル者モ少ナク商工會社ノ支配人ニシテ理論ニ巧ナル者モ稀ナリ又有名ナル理論家ニシテ之ヲ政府ニ用ヒ或ハ會社ノ事ヲ任スレバ實際ニ於テ

ノ支配人ニシテ理論ニ巧ナル者モ稀ナリ又有名ナル理論家

事務ノ擧ラザル者モ亦甚タ多シサレモ世ニ學者論客ノ必用  
ナルハ政府ニ執政ノ缺ク可ラザルガ如ク會社ニ支配人ノ缺  
ク可ラザルガ如クニシテ事ヲ論スル者ト事ヲ執ル者ト双方  
相助ケテ一般ノ爲ニ用ヲ爲ス者ナレバ論者ハ恰モ執事者ノ  
顧問タリト云フモ可ナリ又或ハ論者ノ職分ハ文官ニ似テ執  
事者ノ職分ハ武官ニ異ナラズト云モ可ナリ實地ニ戰フ者ハ  
武官ナレモ和戰ノ利害ヲ論シテ之ヲ制スル者ハ文官ナルガ  
如ク論者ノ説モ之ヲ喋々スル際ニハ世上一般ノ公議輿論ト  
爲リテ世事運動ノ端ヲ開キ遂ニハ政府モ之ガ爲ニ自カラ進  
退スル其景況ハ固ヨリ間接ナリト雖モ本源ノ由テ發スル所

ヲ尋レバ武官ノ者ガ文官ノ制御ヲ仰クノ情ニ異ナラズ席上  
ノ空談ヨク實際ノ用ヲ爲スヲ以テ知ル可シ譬ヘバ方今世上  
ニ喧シクシテ隨分有力ナル彼ノ民權論ノ如キモ日本國中ニ  
於テ始テ之ヲ唱ヘタル者ハ上政府ニモアラズ下民間ニモ非  
ズ唯中間ノ學者社會ヨリ發源シタル者ナレモ今日ニ至テハ  
其議論殆ト下流ノ民間ニモ洽クシテ社會運動ノ一原因ト爲  
リ政府モ之ガ爲ニ多少ノ心思ヲ勞シテ其政畧ヲ左右スルナ  
キヲ得ズ學者ノ發論モ亦有力ナル者ト云フ可シ是等ノ事實  
ニ由テ觀レバ方今天下ニ學者論客ハ乏シカラザルノ時節、此  
時ニ當テ此流ノ人ガ思想ヲ國權ノ點ニ向ケテ一場ノ論壇ヲ

開キ著述ナリ新聞ナリ又演説ナリヨク内外ノ事情ヲ詳ニシ  
テ綿密ニ其事實ヲ枚舉シ物ニ觸レ事ニ當テ喋々止ムコトナク  
バ遂ニハ天下ノ人心ヲ一變シテ國權論ノ喧シキコト今ノ民權  
論ノ如クナルニ至ル可シ事固ヨリ教唆ニシテ人ヲ煽動スル  
ニ似タリ且其際ニハ或ハ主義ヲ誤解スル者モアラント雖モ  
都テ新ニ事ヲ企テントスルニハ必ス弊害ナキヲ得ズ其弊害  
ヲ恐レテ沈黙スレバ際限アル可ラズ今ノ民權論ニテモ人々  
ノ見込次第ニテ弊害ヲ枚舉セバ必ス多カラント雖モ其弊ヲ  
惡テ其論ヲ棄ベカラサルハ無論、假令ヒ弊アル議論ニテモ一  
般ニ平均スレバ最初ヨリ議論ナキニ勝ルコト万々ナリト云フ

可シ故ニ教唆モ煽動モ事柄ニ由ル可シ今ノ時節ナレバ國權  
ノ事ニ付テ人心ノ動クハ祝ス可シ恐ル可ラザル者ナリ  
第三國會ノ初ハ外國交際ノ事ヲ以テ開ク可キ事、國會ヲ開ク  
ノ利害得失ハ姑ク閣キ數年來人心ノ赴ク所ヲ察スレバ利ニ  
モ害ニモ早晚コレヲ開カザルヲ得ザルハ勢ニ於テ明ナリ既  
ニ之ヲ開クニ決定スルキハ此會ニ於テ何事ヲ議ス可キ乎何  
事ヲ議シテ最モ適當シテ最モ其効ヲ見ル可キ乎コレヲ思慮  
スルコト甚タ大切ナリ余輩ノ所見ニテハ外國交際ノ事ヲ以テ  
最モ適當シタルモノトセザルヲ得ズ抑モ數百年來ノ鎖國ヲ  
開テ外國ト交ヲ結フハ數百年來未曾有ノ大事件ニシテ其交



最も適當シタルモノトセザルヲ得ズ抑モ數百年來ノ鎖國ヲ

際ノ利害ヲ國民ニ諮ルハ理ノ當然ニシテ既ニ其例モアルヲ  
ナリ舊幕ノ政府獨斷ノ政治ニシテ一切ノ事ヲ政府外ニ相談  
シタルヲナキモノニテモ嘉永年間「ペルリ」渡來ノ時ニハ開鎖  
ノ利害ヲ諸藩ニ下問シタリ其後徳川ノ末年ニ至ルマデ天下  
有志ノ輩ハ政府ニ對シテ不平多キ其中ニモ外國ノ交際ヲ獨  
斷ニ處スルノ一事ニ就テ特ニ憤怒シタルモノ、如シ當時若  
シ徳川ノ政府ヲシテ虚心平氣以テ外交ノ困難ヲ打明ケテ廣  
ク諸藩ニ諮ルヲアラシメナバ必スシモ政府タル者ノ体面ヲ  
損セズシテ稍ヤ世上ノ不平ヲ慰メタルヲモアラシム事既往ニ  
属スト雖モ識者ハ常ニ徳川ノ爲ニ謀テ遺憾ニ思フ所ナリサ

レハ外交ハ國ノ大事ニシテ舊幕獨制ノ政府ニ於テモ尙且諸藩ニ下問ノ舉アリ況ヤ今ノ公平ト稱スル新政府ニ於テチヤ之ヲ人民ノ議ニ附スルモ毫モ政府ノ体面ヲ損スルニ足ラザルハ無論其名義ノ正シキハ全國一般ノ人心ニ於テ許ス所ナラン又初テ國會ヲ開クニ當リ俄ニ内國ノ事務ヲ商議スルルハ議事ノ法ニモ慣レズ政府モ人民モ共ニ不案内ニシテ其議論動モスレバ枝末ニ亘リ公平ノ本旨ヲ忘レテ唯爭論ニノミ終ル可キノ恐ナキニ非ザレモ外交ノ事ナレバ所謂上下共同ノ方向ナルモノニシテ假令ヒ議事ノ法ニ慣レサル等ノ不都合アルモ議事ノ際ニ苦々シキ争ニ及フノ弊ハ少ナカル可シ

終ル可キノ恐ナキニ非ザレモ外交ノ事ナレバ所謂上下共同  
ノ方向ナルモニシテ股合ヒ議事ノ法ニ慣レサル等ノ不部

斯ノ如ク一事ヲ議シテ二事ニ及ヒ一年ヲ過キテ二年ニ至リ

次第ニ議事ノ体ヲ成スニ隨テ漸ク内國ノ事務ヲモ議スルニ

至ラバ外交ノ議事ハ恰モ國會ノ調練トシテ視ル可シ是亦別

ニ一種ノ利益ナリ故ニ國會ノ初ニ外交ノ事ヲ以テ開クハ道

理ニ於テモ人ノ許ス所、先例ニ於テモ人ノ知ル所、毫モ政府ノ

体面ヲ損スルコトナク毫モ名義ニ妨ナキ者ニシテ前ニ云ヘル

最モ適當シテ最モ其効ヲ見ル可シトハ蓋シ是ノ謂ナリ

右條々ニ記載スル如ク外國ニ往來シ外人ニ接シテ自他ノ別

ヲ明ニセシメ著書新聞演說等ノ法ヲ以テ國權ノ旨ヲ分布シ

國會ニ外交ノ事ヲ議シテ其重大ナルヲ知ラシメ天下ノ人心

一度ヒ敵國外患ノ所在ヲ了解シテ思想ノ向フ所ヲ一ニスル  
ニ至ルキハ其内國ノ利益タルヤ舉テ言フ可ラザル者アリ  
人民ノ不平ヲ除カントシテ其策ヲ求メ之ヲ慰メントスレバ  
際限アル可ラズ去迪コレヲ抑壓シ盡サントスルモ却テ益其  
勢ヲ増ノ患ナシト云フ可ラズ結局人ノ情ヲ制スルニ非ザレ  
バ國事犯罪ノ源ヲ塞クニ足ラズトノフハ編首ニ之ヲ記シタ  
リ然ルニ今天下ノ人情國權ヲ重ニスルノ一點ニ向ヒ之ニ熱  
心シテ餘念ナキノ場合ニ至ルキハ此熱情ニ藉テ以テ大ニ人  
ヲ制ス可キモノアラシク譬ヘバ爰ニ國事ノ罪ヲ犯ス者アリテ  
其罪、法ニ於テ咎ム可シ情ニ於テ惡ム可ラズ世人モ之ヲ見テ

テ制ス可キモノアラソ警ハバ爰ニ國事ノ罪ヲ犯ス者アリテ

私ニ其罪ヲ許スノミナラズ内心ノ底ヲ叩ケバ此罪人ノ舉動ニ心醉シテ措クコト能ハザルガ如キ者アルハ何ソヤ蓋シ此國事犯ナル者ハ唯内國ノ事ニ關係シテ他ニ顧ル所ナク己ガ好ム所ヲ好ンテ己ガ惡ム所ヲ惡ミ身ヲ殉シテ事ヲ爲サントスル者ナレバ世間ニ之ト好惡ヲ同フシ不平ヲ共ニスル者ハ其舉動ニ心醉シテ同情相憐ムノ意ナキヲ得ズ加之前ニモ云ヘル如ク世ノ中ヲ平均スレバ平氣ナル者ヨリモ不平ナル者固ヨリ多數ナルガ故ニ犯罪人ハ罪ヲ犯シテ或ハ一命ヲモ失ヒナガラ顧ミテ世間多數ノ人心ニ訴ヘ死ニ至ルマデモ意氣揚々トシテ耻ル色ナシ又政府ニ於テモ國事犯ノ者アレバ單ニ

之ヲ國安防害ノ罪人トシテ罰ニ處スルヲ常トス畢竟律ニ於  
 テ他ニ用ユ可キ語ナキガ故ニ然ルモノトハ雖モ此國安ナル  
 文字ヲ今ノ人ノ氣風ヲ以テ解スルモハ唯内國限リノ安全ト  
 聞ヘテ甚タ重大ナラザルモノ、如シ其證據ニハ法律ニ國安  
 ノ字ヲ用ヒテヨリ以來世上ノ記者ガ之ヲ轉用シ或ハ政府安  
 役人安尙甚シキハ酒客安娼妓安等ノ熟字ヲ作テ半ハ之ヲ諧  
 謔ニ用ルモノ多シ固ヨリ文章ノ工風レバ何等ノ字ヲ用ルモ  
 決シテ妨ナキヲナレモ律ノ語ニ初テ安ノ字ヲ用ヒテ直ニ之  
 ヲ轉用シテ娼妓安ノ熟字ヲ作り國安モ安ナリ妓安モ安ナリ  
 トテ暗ニ之ヲ相對スルガ如キハ畢竟國安ノ字ヲ重ク見ザル

罪ニ非ズ天下ノ氣風ニ於テ此國安ヲ内國限リノ事ト爲スル  
 未タ外交ニ關スルノ國安ナルモノヲ知ラサレバナリ是等ノ

決シテ妨ナキコトナレモ律ノ語ニ初テ安ノ字ヲ用ヒテ直ニ之  
ヲ轉用シテ娼妓安ノ熟字ヲ作リ國安モ安ナリ妓安モ安ナリ

ノ證ト云ハザルヲ得ズ其コレヲ重ンゼサルハ何ソヤ記者ノ  
罪ニ非ズ天下ノ氣風ニ於テ此國安ヲ内國限リノ事ト認メテ  
未ダ外交ニ關スルノ國安ナルモノヲ知ラサレバナリ是等ノ  
事情ニ由テ今ノ國事犯罪人ハ罪ヲ犯シテ却テ自カラ得意ナ  
ルガ如シ國ノ爲ニ憂フ可キノ大ナルモノト云フ可シ故ニ余  
輩ノ願フ所ハ天下ノ人心ニ今ヨリ一段ノ所見ヲ廣クシテ官  
私ヲ問ハズ其公議輿論ナルモノニ於テ内國ノ事ヨリモ外國  
交際ノ事ヲ重ンシ内國限リノ國安ヲ後ニシテ外交ニ關スル  
ノ國安ヲ先ニシ外交ノ利害ヲ本位ニ立テ、犯罪ノ輕重是非  
ヲモ判斷センコトノ一事ナリ天下ノ輿論ニ於テ斯ノ如ク判斷

シ此罪人、法ニ咎ム可シ情ニ惡ム可ラザルニ似タレモ其情ナ  
ルモノハ内國ニ關スル事ナリ政治論ノ黨派ニ關スル利害ナ  
リ黨派ニ於テハ公明ナル舉動ト稱スルモ全國ヲ一團トシテ  
外國ニ對スルハ其利害甚タ小ナリ或ハ斯ノ小利害ノ爲ニ  
全國ノ機關ヲ動搖セシメテ外ニ對スルノ勢力ヲ損スルガ如  
キハ局處ニ公明ニシテ全面ニ公明ナラザルモノナリ其公明  
ナラザルヲ知テ之ニ從事スルハ國ニ不忠ナリ知ラズシテ爲  
スハ不智ナリ不忠不智ハ男子ノ耻ツ可キ所ナリ兄弟ノ爭論  
理ナキニ非サレモ親ノ病中其時ニ非ズト恰モ高キ壇上ニ步  
ヲ占メテ貴キ旗章ヲ標的ニ立テ啻ニ犯罪人ノ公罪ヲ鳴ラス



ノミナラズ其心事情實ノ私ヲ責ルヲアヲバ世ニ國事犯ノ數  
ヲ減ス可キハ無論或ハ政府ニ於テモ其所見ヲ外交ノ重大ナ  
ル方ニ轉スレバ罪ノ許ス可キモノモアラン又或ハ假令ヒ之  
ヲ犯ス者アルモ其主義トスル所自カラ高尚綿密ニ亘リテ從  
前ノ如キ輕舉暴動ハ稀ナル可シ余輩ノ所謂情ヲ以テ人ヲ制  
スルトハ是ノ謂ナリ

又前ニモ云ヘル如ク社會ノ秩序ヲ維持スルニハ堪忍ヨリ大  
切ナルハナシ殊ニ今後我國ニ於テ民會國會等ヲ開クノ時ニ  
於テ注意ス可キモノハ唯コノ一點ニ止マルヲナラン然リ而  
シテ人ニ堪忍ノ心ヲ養フノ法ヲ求ルニ所謂因果ヲ說テ無理

往生ニ勘辨セシムルノ術ハ昔日壓制束縛ノ時代ニ流行シテ  
今日ノ人心ニ於テハ最モ不適當ナル者ナリ今日ハ道理推究  
ノ日ナリ假令ヒ事實ニ於テハ之ヲ推窮スル者甚々稀ナルモ  
推究ヲ唱ルノ時勢ナレバ人心ヲ導クニモ此方向ニ由ラザル  
ヲ得ズ抑モ會議ノ性質ヲ尋レバ單ニ兩黨ノ爭論ニシテ其決  
議トハ此爭論ノ勝敗タルニ過キズ既ニ勝敗アレバ勝ツ者ハ  
得意ニシテ敗スル者ハ不平ナキヲ得ザルノ理ナレト議論ノ  
結末ヲ外國交際ノ利害ニ歸シ假令ヒ一場ノ爭論ニ敗スルモ  
國中一般最第一ノ問題タル外交ニ關シテ利害ノ在ル所ヲ見  
レバ其敗モ無理往生ノ敗ニ非ズシテ稍ヤ道理ニ由テ歩ヲ退

ヒテ主人ニ思ナレバ甚ク便利ナリ血氣ノ少年家内ニ喧シト  
雖用火難盜難ノ片ニハ特ニ之ニ依頼セサルヲ得ズ留主番ハ

クルヲ得ベシ譬へバ守錢奴賤シム可シト雖<sub>レ</sub>之ヲ家僕ニ用  
ヒテ主人ニ忠ナレバ甚タ便利ナリ血氣ノ少年家内ニ喧シト  
雖<sub>レ</sub>火難盜難ノ<sub>レ</sub><sub>レ</sub>ハ特ニ之ニ依頼セサルヲ得ズ留主番ハ  
老人ニ限り客ノ取持ハ婦人ヲ最上トス此邊ヲ斟酌シテオヲ  
用ヒ能ニ任スル之ヲ人ヲ器ニスト云フ人ヲ器ニシテ用レバ  
甲ノ事ニ適スル所ノミヲ取テ乙ノ場所ニ不適當ナル所ハ之  
ヲ看過シテ堪忍セザルヲ得ズ議事ノ事情モ亦コレニ類スル  
モノアリ千緒万端ノ議論相分レテ公共ノ事ヲ争ヒ或ハ剛ヲ  
主トスル者アリ或ハ柔ヲ貴フ者アリ或ハ内實ノ節儉ヲ重ン  
スル者アリ或ハ外見ノ裝飾ヲ悦フ者アリテ逐一我意ニ適セ

ントスルハ固ヨリ望ム可キニ非ザレモ此千万ノ議論ニ接シ  
テ恰モ其議論ヲ器ニシテ之ヲ聞クハ各適當ノ場所ナキニ  
非ズ某ノ論甚タ強剛ナリト雖モ一國獨立ノ權ヲ主張スルニ  
ハ斯ノ如クナラザル可ラズ某ノ議甚タ柔弱ナリト雖モ文ヲ  
以テ外人ニ接スルニハ亦斯ノ如クナルヲ要ス富實モ固ヨリ  
大切ナリ裝飾モ亦等閑ニス可ラズ云々トテ隨テ聞キ隨テ前  
後ヲ推考スレバ必スシモ他ノ一議ヲ聞テ遽ニ怒ルニモ足ラ  
ズ或ハ現ニ政府ト人民ト相對シテ租稅輕重ノ爭論アルモ其  
稅額ヲ用ル所ヲ考ヘテ彼ノ佛蘭西ノ人民ガ兵ヲ増スガ爲ニ  
金ヲ愛マザルノ氣象ヲ學フハ政府ニ負ケテ苛稅ヲ拂フモ

テ不快ヲ覺レモ此人民ガ外國人ニ對シテモ斯ノ如ク同情ナ  
ラン斯ル人民コソ万一ノ時ニ依頼ス可キモノナレト思ハバ

亦憂ルニ足ラズ或ハ政府ノ官吏ガ人民ノ剛情不遜ナルヲ見  
テ不快ヲ覺レモ此人民ガ外國人ニ對シテモ斯ノ如ク剛情ヲ  
ランスル人民コソ万一ノ時ニ依頼ス可キモノナレト思ヘバ  
其剛情ニ閉口シテ一時官ノ威勢ヲ減スルモ耻ツ可キニ非ズ  
武官ノ武骨ナルモ恕ス可シ文官ノ文弱ナルモ咎ム可ラズ唯  
一點ノ外國交際ヲ目的ニ定メテ之ニ向フキハ天下ノ人民ヲ  
シテ堪忍ノ心ヲ抱カシメ然モ其堪忍ハ無理往生ノ堪忍ニ非  
スシテ利害ヲ推窮シ人ヲ器ニシ明白ナル結果ヲ期スルノ堪  
忍ナレハ社會ノ結合ニ缺ク可ラサルノ要訣ト云フ可シ  
又全國ノ人民ニ忠義ノ心ヲ養フハ社會ヲ維持スルノ方便ニ

シテ年月ヲ經ルノ間ニ其習慣ヲ成ス所ハ非常ノ勢力ヲ得ル  
モノナリトノ旨モ前既ニ之ヲ論シタリ其法ハ君家ト人民ト  
ノ間ニ關係ヲ近クシテ互ニ親愛ノ情ヲ求ルコトニシテ往古支  
那ニテ天子ノ巡狩、近ク日本ニテハ諸藩主ノ回郡巡見等皆コ  
ノ趣意ニ基キシモノナラン甚タ謂レナキニ非ザレド人民ノ  
心ニ我君家ト他ノ君家トヲ比較スルノ機ヲ得サレバ到底忠  
義ノ堅キモノヲ致ス可ラズ抑モ忠義心ハ元ト心酔ノ情ヨリ  
生スルモノニシテ利害損得道理ノ勘定ニ出タルモノニ非ズ  
故ニ一度ヒ心酔ノ情ヲ生シテ其物ヲ美ナリトスレバ殆ト判  
斷ノ心ヲモ失ヒ我物ヲ美ナリトシ我物ヲ善ナリトシ左顧右

視シテ唯他ニ我物ヨリモ一層ノ善美ナルモノアラシクテ恐  
ル、ノミ或ハ偶然ニ美物ヲ見テ眞實ニ我物ノ右ニ出ルモノ  
アルモ決シテ之ニ落膽スルコトナクシテ却テ左右ニ説ヲ作り  
テ益我物ヲ悦ヒ益コレヲ保護シ益コレヲ研磨裝飾シテ我聲  
價ヲ落スコトナカラシムヲ欲ス即チ人情ノ常ニシテ忠義心ノ働  
ク所ナリ然リト雖モ凡天地ノ間ニ無類ニシテ比較ス可ラザ  
ル物ハ貴カラズ貴カラサレバ亦コレニ心酔スル者モナシ金  
剛石ノ大ナルヲ貴フハ同種ノ小ナル者ニ比スレバナリ富士  
山ヲ高シト云フハ他ノ小丘ニ比スレバナリ西施ノ美ナルハ  
醜婦アルガ爲ナリ堯舜ノ仁ナルハ桀紂ノ不仁ナルガ爲ナリ

若シモ支那歷代ノ帝王ナシテ悉皆堯舜ナラシムル歟又ハ堯舜ノ他ニ帝王ナルモノナカラシメナバ其仁德モ亦心酔スルニ由ナシ故ニ日本ニ於テモ封建ノ時代ニ諸藩ノ士民ガ各其藩主ニ對シテ忠義ノ心ヲ抱キ我領主ナリ我君家ナリトテ我惡ヲ掩ヒ我美ヲ發揚シ甚シキハ牽強附會ノ說ヲ作テ或ハ竊ニ人ニ笑ハル、モ尙且コレヲ顧ザル程ノ熱心ニ至リシハ畢竟自他相比較シ相競争スルノ念ニ生シタルモノニシテ通常ノ語ニ敝邑寡君尊藩貴國等ノ字ヲ用ヒタルモ尊敬卑下ノ定式トハ雖モ自カラ其際ニ彼ト此トヲ區別シテ相對シ相競争ノ情ヲ見ル可シサレバ舊藩士民ノ忠義心ハ同種類ノ藩々ヲ



相互ニ比較スルノ人情ヨリ生シタルモノト云ハサルヲ得ザ  
ルナリ若シモ日本國中ニ藩ナルモノナキ歟又ハ國中唯一幕  
府ニシテ其幕府ヲ以テ他ニ比較ス可キモノナカリセバ封建  
時代ノ如キ忠義ノ熱心ヲ致ス可能ハザリシハ万々疑ヲ容ル  
可ラズ然ルニ廢藩以後ハ我日本モ唯一政府ト爲リ國主トシ  
テ仰クモノハ唯一ノ王室アルノミニシテ國中他ニ比較ス可  
キモノナシ此時ニ當テ此政府ヲ我政府トシ此王室ヲ我王室  
トシテ人民一般ニ忠義ノ熱心ヲ養フノ法ハ唯日本ノ外ニ外  
國アルヲ知ルコト舊藩ノ士民ガ鄰藩アルヲ知ルガ如クナラシ  
ムルニ在ルノミ人民ノ思想一度ヒ此點ニ向フキハ始テ其眼

界ヲ廣クシテ我日本ノ政府モ天地無類ノ一政府ニ非ズシテ  
他ニ亦同種類ノ王室政府ナルモノ甚タ多キヲ知リ之ヲ知ル  
コト愈詳ナレバ隨テ胸裏ニ計算ヲ立テ某ノ政府ハ斯ノ如シ某  
ノ王室ハ斯ノ如シ之ヲ我日本ニ比スレバ云々トテ彼我政体  
ノ得失、人物ノ良否ヲ論スルノミナラズ其細目ハ儀仗衣冠ノ  
制度、宮室衙門ノ裝置ニ至ルマデモ逐一彼我ノ美惡ヲ比較喋  
論シテ假令ヒ外國ニ美ナル者アルモ之ニ落膽スルコトナクシ  
テ却テ益我美ヲ發揚シテ我惡ヲ掩ヒ竊ニ自家ノ不足ヲ補ハ  
ントシテ熱心一向餘念ナキノ場合ニ至ル可シ蓋シ西洋諸國  
ニ於テ祝日等ニハ全國ノ每家ニ國旗ヲ懸シ其祝詞ニハ必ス

ス我ノ字ヲ冠スルヲ見テモ人請ノ在リキ

我國我王云々トテ叫聲止ムコナキ其中ニ就テ國ト王トニ必  
ス我ノ字ヲ冠スルヲ見テモ人情ノ在ル所ヲ知ル可シ之ヲ俗  
ニ譯スレバ昔日封建ノ時代ニ藩ノ士民ガ藩主ヲ目シテ内ノ  
殿様ト唱ヘタルニ異ナラズ内ハ外ノ反對ニシテ他藩主ニ對  
スル意味ナリ故ニ今ノ西洋諸國ニテ我國我王トハ他國他國  
王ニ對シテ殊更ニ用ル語ナレバ愛國勤王ノ忠義心ハ其習慣  
ニ於テ日常發語ノ端ニモ存シテ我舊藩ノ士民ガ其藩地藩主  
ニ戀々タルノ情ニ異ナラザルコト以テ知ル可シ故ニ云ク今ノ  
時勢ニ於テ全國人民ノ忠義心ヲ養ヒ其親愛ノ情ヲ堅クスル  
ノ方便ハ外交ノ一事ヲ主張スルノ外ニ求ム可ラザルナリ

支那人ノ情弱ナルモ原因ハ甚々多キヲナラント雖也其一  
箇條ヲ舉レバ廣大ナル國土ノ人民ガ一政府ノ下ニ居リ外  
國ノ交際ニ意ヲ關セズシテ自他ノ思想ニ乏シク我帝王尊  
ニカラサルニ非ズト雖也其尊キハ唯我ヨリモ尊キノミニシ  
テ之ヲ他國ノ帝王ノ尊キモノニ比較シテ相競フノ念ヲ生  
スルニ由ナシ之ガタメニ自カラ忠義ノ心モ薄クシテ情弱  
ナルヲナラン近年ニ至テ該人民モ漸ク改進ニ赴キ兵艦ヲ  
造リ傳習生ヲ海外ニ派出スル等少シク活潑ノ風ヲ示スガ  
如キハ畢竟阿片始末以後度々ノ外戰ヲ以テ始テ外國アル  
ヲ知タル故ナラン英佛ハ支那ヲ攻メテ一時ノ勝利ヲバ得

前條ニ述ル所果シテ是ナラバ國事犯ノ害ヲ除テ其犯罪人ノ  
情ヲ制スルニモ、民會國會ヲ起シテ人民相互ニ甚

タレモ支那ノ爲ニ謀テ永年全局ノ利害ヲ察スレバ其敗衄  
ハ價ノ貴キモノニ非ザル可シ

前條ニ述ル所果シテ是ナラバ國事犯ノ害ヲ除テ其犯罪人ノ  
情ヲ制スルニモ、民會國會ヲ起シテ人民相互ニ堪忍ノ心ヲ抱  
カシムルニモ、人民ノ忠義心ヲ養フテ愛國ノ情ヲ堅クスルニ  
モ其方便ハ唯外交ノ事情ヲ明シテ國權ヲ主張スルノ一策ア  
ルノミ本年九月發兌シタル拙著通俗國權論モ其目的トスル  
所ハ他ニ在ラサルナリ世間同臭ノ士人ハ必ス此書ヲ讀テ著  
者ノ微意ヲ知り或ハ之ヲ講論シ或ハ之ヲ演述シテ次第ニ天  
下ノ人心ヲ提引スルヲモアラシ著者ノ幸甚コレニ過ルモノ

ナシ今コノ第二編ハ初編ノ意ヲ擴メテ今世ニ國權論ノ缺ク  
可ラザル理由ヲ示シ聊カ鄙見ノ在ル所ヲ說了シテ將ニ筆ヲ  
閣セントスルニ臨ミ又爰ニ數言ヲ贅スルノ必要ナルヲ見タ  
リ其次第ハ頃日一友人余ニ告ル者アリ國權論ノ初編第六十  
四丁ニ日本ノ士人ハ宗教ノ外ニ逍遙シテ幸福ヲ全フシ云々  
又人文少シク進歩スレバ今ノ所謂宗教ノ如キハ之ヲ度外視  
シテ差支ナシ云々ノ說ヲ聞テ世上一二ノ人ハ甚々之ヲ悅ハ  
ズ著者ヲ目シテ不信ナリ薄情ナリ人ヲ煽動スル者ナリトテ  
餓鬼外道ノ如クニ罵詈スル者アリト余ハ敢テ此罵詈ヲ罵詈  
セント欲スルニハ非サレ用世ノ議論ニハ隨分行違モアルモ

寶ヲ以テ證シタルヲニテ先ノ寺院ニ行テ説法ノ席ヲ見ルニ  
聽聞ノ衆中ニ學者士君子ハ甚々

ノナレバ面倒ナガラ少シク辨解シテ人ノ罵詈ヲ慰メサルヲ  
得ズ抑モ著者が日本ノ士人ヲ評シテ不信心ナリト云フハ事  
實ヲ以テ證シタルコトニテ先ツ寺院ニ行テ說法ノ席ヲ見ルニ  
聽聞ノ衆中ニ學者士君子ハ甚々稀ナリ田舎ノ學者ガ本山ノ  
參詣ニトテ特ニ上京シタルヲ聞カズ神佛ノ開帳ニ熱心シタ  
ルヲ見ズ又宮寺ノ額ニ結髮ヲ切り添ヘテ難船救助ノ恩ヲ謝  
シ或ハ奇妙不思議ナル繪ヲ畫キテ靈夢ノ有様ヲ現ハシ或ハ  
酒ヲ禁スルト云ヒ搏奕ヲ思切ルト誓ヒ様々ナル報恩誓願ノ  
意ヲ籠メタル其額面ニ一トシテ學者士君子ノ姓名ヲ見ズ往  
古平相國清盛ハ巖島大明神ヲ信仰シ加藤清正ハ法華宗ニ歸

依シタリトノ話モアリ近來ニテモ上等社會ニ或ハ神佛ヲ信  
仰スル者モアラント雖モ其數固ヨリ少ナクシテ且コレヲ信  
スルニモ多クハ人ニ語ラズシテ其痕跡ヲ示サマルヲ常トス  
蓋シ清盛清正ノ時代ニハ公然ト之ヲ行ヒ近來ニ至テハ之ヲ  
私ニスルハ何ソヤ人文ノ進歩スルニ從ヒ神佛ノ信心ハ不外  
聞ノ一箇條ト爲リタル證據ナリ然リ而シテ清盛清正ノ時代  
ト徳川ノ時代トヲ比較シテ士人ノ品行大ニ退歩シタリトノ  
證ヲ見ズ品行退歩スルヲナクシテ神佛ノ信心ハ不外聞ノ如  
クニ爲リタルハ何ソヤ日本ノ士人ハ一種ノ氣風ヲ有シヨク  
宗教ノ外ニ逍遙シテ自カラ其品行ヲ維持スルノ明證ト云フ

々々看過ス可カラズ其次第ハ我士人が神佛ヲ信セズシテ  
唯モ其更ニ之ヲ敬視セズ又蔑視セズ



可シ且著者が逍遙ト記シタルハ特ニ用ヒタル文字ナレバ輕々看過ス可ラズ其次第ハ我士人が神佛ヲ信セズシテ禮拜等ノ事ヲバ意ニ關セズト雖モ殊更ニ之ヲ敵視セズ又蔑視セズ試ニ我士人ニ向テ汝ノ死後ハ如何スル歟其魂魄ハ天ニ登ル歟地ニ墜ル歟地獄極樂ハ有ルモノ歟無キモノ歟彌陀如來ハ如何ナルモノ歟西洋流ノ「ゴット」ハ何モノ歟云々ト尋テタラバ必ス單ニ知ラズト答ルコトナランサレバ此士人ハ亡友亡親ノ魂魄ノ所在ヲモ知ラザル譯ケナレハ追悼祭祀ノ事モ無益ナルニ似タレモ決シテ然ラズ亡友ノ爲ニハ追善ノ會ヲ催フシ墓碑ノ銘ヲ刻シ家ニ在テハ父母ノ忌日ヲ忘レズ先祖ノ法

事ヲ務メ法事ノ席ニ寺僧來レバ之ヲ上座ニ招待シテ甘ンシ  
 テ其讀經ヲ聽テ丁寧ニ挨拶シ之ヲ子孫最大ノ職務ト認メテ  
 若シモ此一義ヲ怠ル者アレバ郷黨朋友ニ齒ス可ラズ其務嚴  
 ナリト云フ可シ或ハ氏神ノ祭禮ト云ヘバ酒食ヲ備ヘテ宴席  
 ヲ開キ宮寺ノ建立ニハ米錢ヲ奉納スル等其事煩ハシカラザ  
 ルニ非ザレモ之ヲ憚ル者モナシ職務ノ嚴ナルヲ斯ノ如ク事  
 ノ煩ナルヲ斯ノ如シ此ヲ是レ憚ラスシテ之ヲ務メナガラ其  
 目的ヲ聞ケバ單ニ知ラズト答テ面ニ見ハレ背ニ盎レ毫モ怪  
 シム色ナシ首尾顛末ノ不都合極ルモノト云フ可シ此不都合  
 ノ間ニ悠々トシテ強ヒテ爭フモノモナクヨク其心身ヲ安ン

人生ノ美事コレヨリ大ナルハナシ是即チ余輩ノ所謂宗教ノ  
 外ニ逍遙スルモノナリ蓋シ美味ハ美ナラザレバ口大ニ

シテ其品行ヲ維持シ識ラズ知ラズノ際ニ社會ノ幸福ヲ致ス  
人生ノ美事コレヨリ大ナルハナシ是即チ余輩ノ所謂宗教ノ  
外ニ逍遙スルモノナリ蓋シ美味ハ美ナラザルガ如ク大幸ハ  
無幸ニ似タリ日本ノ士人ハ大幸ヲ得ルモノト云フ可シ  
又人文少シク進歩スレバ今ノ宗教ノ如キハ之ヲ度外視シテ  
差支ナキノミナラズ宗教熱心ノ輩モ自カラ之ヲ度外視シテ  
更ニ新說ヲ工夫スルコトナラン譬ヘバ往古佛法渡來ノ初ニハ  
天台真言等ノ諸宗派ニテ靈妙不思議ノ說ヲ說キ加持祈禱咒  
ナド様々ノ佛說ヲ唱ヘテ人民一般ニ信仰シタルコトナレモ歲  
月ヲ經ルノ際ニ次第ニ之ヲ信スル者ノ數ヲ減シテ之ヲ度外

視スル者ノ數ヲ増シ其増減スルニ從テ次第ニ佛說ノ趣ヲモ  
 變シ近來ノ眞宗ノ如キハ絶テ不思議ヲ唱ルコトナクシテ古ノ  
 天台眞言ニ比シテ大ナル相違アルハ何ソヤ其由縁甚々見易  
 シ等シク釋迦ヲ宗トスル宗旨ニシテ宗旨ニ相違ハアラザレ  
 也古今ノ人文ニ相違アレハ嘗ニ世上ノ人民ガ古キ佛說ヲ度  
 外視スルノミナラズ佛者モ亦社會人文ノ氣風ニ壓倒セラレ  
 テ自カラ之ニ通セントシ舊ヲ度外視シテ新ヲ工夫シタルノ  
 明證ナリ西洋ニ於テ天主教ノ舊說ヲ排シテ「プロテスタント」  
 ノ新說ヲ工夫シタルモ其趣ハ東西符節ヲ合スルガ如シサレ  
 バ世界ノ人文ハ今日ヲ以テ極度ト云フ可ラズ月ニ新ニ年ニ

進ム其年月ノ際ニハ必ス今ノ宗教ヲ度外視スルノ日アル可  
キハ万々疑ヲ容レズ譬ヘバ真宗ハ一佛ヲ拜シテ衆神佛ヲ念  
スルヲ無益ナリトスレモ行住坐臥一心一向ニ眞實明ニ歸命  
シタラバ必スシモ木板ニ摺立タル幾百千ノ佛像ニ表具シテ  
寺々家々ノ佛壇ニ掛ルニモ及ハザル可シ耶蘇宗ハ偶像ヲ嫌  
フテ無形ヲ拜ス可シト勸レモ洪大ナル寺ヲ建立シテ金玉ヲ  
装ヒ必スシモ此寺ニ集會シテ一神ヲ念スルハ假令ヒ無形ノ  
神ニテモ有形ノ裝飾ナクシテハ不都合ナルガ故ナラシメ金箔  
ヲ附ケタル偶像モ金玉ヲ装フタル寺モ左マデ大ナル相違ニ  
非サレバ強チ偶像ヲ咎ルニモ及ハザル可シ方今ハ人文大ニ

進歩シテ宗旨家ノ中ニモ往々卓識ノ人物ヲ生シ如來ノ掛物  
 ノ無益ナルヲ知リ耶蘇堂ノ虚飾ナルヲ歎息スル者ナキニ非  
 サレモ如何セン虚飾モ亦今ノ世ニ處シテ今ノ人ニ接スルノ  
 方便ナレバ之ヲ止ム可ラス宗旨ノ説ノ次第ニ佳境ニ入テ無  
 味淡白ノ點ニ達スルハ蓋シ年月ヲ費スノ外ニ手段ナキ下ナ  
 ラン唯歩一步ヲ進メテ舊ヲ棄テ新ヲ工夫スルノ路アルノミ  
 余輩ノ所謂今ノ宗旨ヲ度外視スルトハ無智文盲ノ愚民ヲ煽  
 動シテ之ヲ蔑視セヨト云フニハ非ズ偶像ヲ拜スル者モアラ  
 ン寺院ノ壯麗ニ心酔シテ木造ノ十字架ヲ戴ク者モアラシ蛇  
 ヲ崇ム者モアラシ象ヲ念スル者モアラシ人々ノ勝手次第又

智惠次第ナレバ蛇モ甚大切ナリ十字架モ亦甚必用ナリ之ヲ  
以テ今ノ愚民ノ品行ヲ維持スルノ方便トナラバ何ソ之ヲ棄  
ルヲチ爲ンヤ余輩ハ自カラ今ノ宗教ヲ度外視スレモ人ノ爲  
ニハ之ヲ度外視セザルモノナリ





明治十二年三月十八日版權免許

著述出版人

福澤諭吉

東京三田貳丁目貳番地

賣捌書林

山中市兵衛

同芝三嶋町拾四番地

同

丸家善七

同日本橋通三丁目拾四番地

同

慶應義塾出版社

同三田貳丁目貳番地

同

同

寶曆書林

蔭越出類人

同三田及下目灰漆  
與那邊堡出類人

同日本游歷三千日合四番賦

武宗善士

同芝三洲田供四番賦

山中市兵衛

東京三田及下目灰漆

誦擊編吉

四書十二年三月十八日類對英信





51 0

27413

1

福
30-5
著作

